



【知人友人編（災害発生直後）】

■悪い対応

地震や津波の影響を受け、家が半壊し、避難所生活を送っている田中さん。

心配した友人の佐藤さんが手伝いに来てくれました。



女性：（疲労困憊し、不安な様子）はあ…

知人：田中さん、大丈夫？来る途中、おうちを見てきたんだけど、大変なことになっていたね。

女性：うん…本当、突然のことだったから、なんとか逃げてきたけど、また、津波が来るんじゃないかって、怖くて。

知人：怖いよね。でも、命は助かったんだしよかったじゃない。



女性：家は流されずに残ったんだけど、でも、一階が浸水してね。まだ家には戻れないんだよね。一階にあったいろんなものが流されてて、なんだか辛くて…



知人：家が流された人もいるんだから、1階が流されただけで、2階が大丈夫だったんだから、よかったじゃない。

それに、家族も元気なんだし。



女性：そうだよ…でも、しばらくは避難所で生活することになりそうなんだ。

避難所は集団生活でしょう。自分たちで自由に食事も作れないし、非常事態だから、いろいろストレスもあって…大変なんだ。

知人：でも逆に、みんな一緒に良かったじゃない？また何かあった時に助けてもらえるし。

女性：それは、そうなんだけど…集団でいることがストレスに感じることもあるし、これから先のこと考えたら、絶望的な気持ちになっちゃうんだ。



知人：そんなことで、どうするのよ。

これからが大変なんでしょう。

頑張って、前を向いていかなきゃ。



女性：そうだよ…でも、なんだか、元気がなくて…母親も体調悪くてね…まだ安否のわからない親戚もいるし…。いろいろ考えたら、夜も眠れなくて…眠れない日はね。いっそのこと流されたほうがよかったんじゃないかなあって、思うこともあるんだあ。

知人：なに、馬鹿なこと言っているのよ。助かった命なのよ。元気出さないよ。



お母さん、調子悪いんでしょう。

あなたが、しっかりしないと。これからが大変なんでしょう。

女性：そうだね…ありがとう…（元気ない返事）

知人：（笑顔で立ち去る）

